

令和5年度 第4四半期 (1月~3月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 9.6 ポイント悪化、
令和4年度第4四半期からは 3.2 ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲9.0 (前期比▲9.6、
前年同期比+3.2)、来期見通し (4月~6月) につ
いては▲1.9 (当期比+7.1) となった。

小売業・サービス業では DI 値が前期比プラスと
なったものの、その他の業種では前期比マイナスと
なった。原材料価格や人件費の上昇、人手不足が深刻
であるとの声が前期同様多く挙がった。また、不安
定な海外情勢や、一部業界では4月からの働き方改
革の影響を懸念する声も聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が
37.3 (前期比▲4.1、前年同期比+7.5)、来期に設
備投資を「計画している」との回答は 35.6 (当期比
▲1.7) となった。

■製造業

業況 DI 値は▲17.2 (前期比▲22.6、前年同期比
+2.0)、来期の見通しについては▲3.1 (当期比+
14.1) となった。

食品製造業では価格改定の結果売上が堅調であ
る、IT 業界は比較的好調である等の声があった
が、全般的には原材料・エネルギー価格の高騰が収
益を圧迫しているとの声、人手不足が深刻である
との声、海外情勢や自動車メーカーの不正問題が業
況に影響を及ぼしているとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、
「人件費の増加」、「需要の停滞」が主に挙げられ
る。

■建設業

業況 DI 値は▲7.7 (前期比▲2.9、前年同期比+
6.1)、来期の見通しについては▲3.8 (当期比+
3.9) となった。

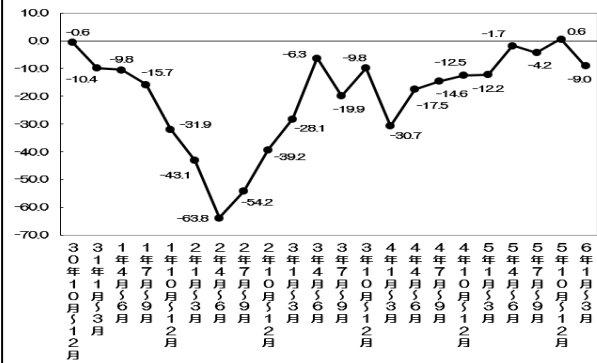
住宅関連で受注を確保できているとの声がある一
方で、資材やエネルギー価格の高騰等の影響で受注
競争が激化する中、価格転嫁は厳しい状況である
との声が聞かれた。また、若手の採用難や下請け業
者の確保難が深刻だとの声、4月からの働き方改
革の影響を懸念する声も挙がった。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、
「材料単価の上昇」、「民間需要の停滞」が主に挙げ
られる。

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)回答企業数：155社
- 調査期間
令和6年1月~3月
- 調査方法
往復はがき、FAX、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 64・建設業 26・卸売業 19
小売業 17・運輸業 13・サービス業 16

全業種



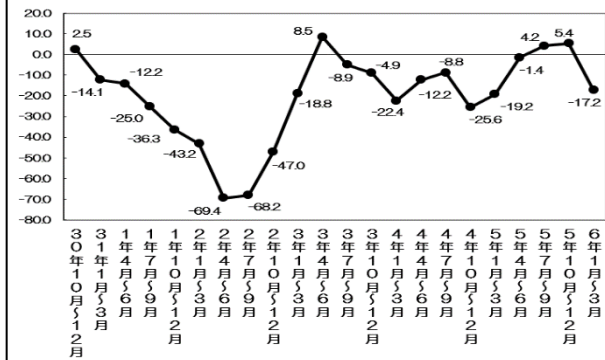
《A》前年同期 (令和5年1月~3月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	↑
18.1%	54.8%	27.1%	▲9.0%	

《B》来期 (令和6年4月~6月) の景況見通し

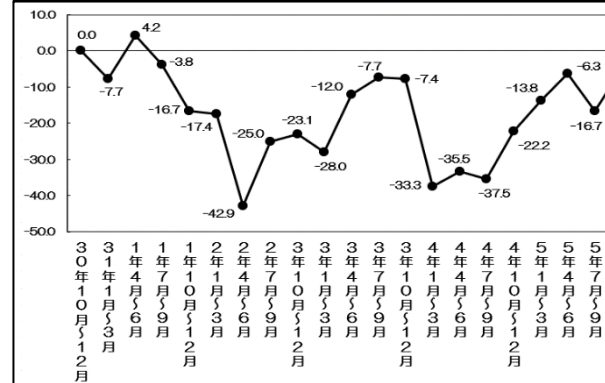
良い	同様	悪い	DI 値	↑
16.8%	64.5%	18.7%	▲1.9%	

製造業



【前年同期比】	令和5年1~3月	【来期見通し】	令和6年4~6月
自社の業況	▲17.2 ↑	自社の業況	▲3.1 ↑

建設業



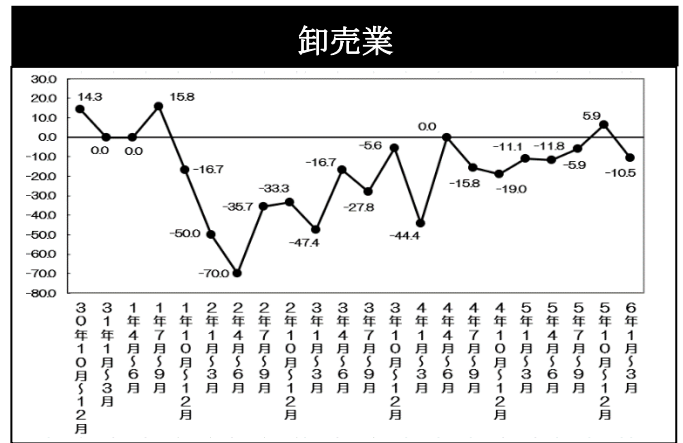
【前年同期比】	令和5年1~3月	【来期見通し】	令和6年4~6月
自社の業況	▲7.7 ↑	自社の業況	▲3.8 ↑

■卸売業

業況 DI 値は▲10.5（前期比▲16.4、前年同期比+0.6）、来期の見通しについては±0.0（当期比+10.5）となった。

食品卸売業では原材料や資材価格の高騰、諸経費の増加により、売上がアップしても利益が上がらない、建築資材卸売業では卸先の職人不足が深刻であるとの声が挙がった。一方で、値上げはある程度収まってきているとの指摘もあった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。



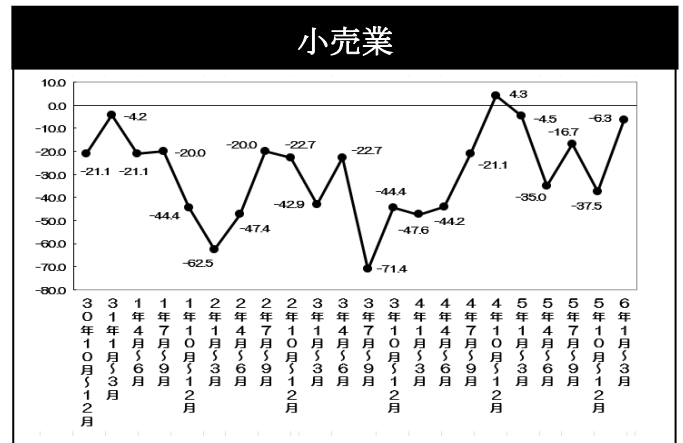
【前年同期比】	令和5年1~3月	【来期見通し】	令和6年4~6月
自社の業況	▲10.5 ↑	自社の業況	0.0 ↑

■小売業

業況 DI 値は▲6.3（前期比+31.2、前年同期比▲1.8）、来期の見通しについては▲17.6（当期比▲11.4）となった。

事務用品小売業でコロナが収まり需要の増加が見られるとの声や、デジタルツールの導入により業務効率化を図っているとの話題も聞かれた。一方で、スーパーでは仕入価格の上昇が収まらず、価格転嫁も難しい状況である、他社との競争が激化している、人件費の増加も厳しいとの声が挙がった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「人件費の増加」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



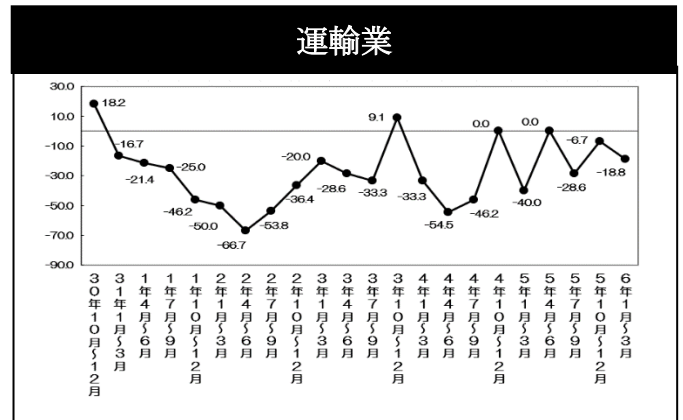
【前年同期比】	令和5年1~3月	【来期見通し】	令和6年4~6月
自社の業況	▲6.3 ↓	自社の業況	▲17.6 ↓

■運輸業

業況 DI 値は▲18.8（前期比▲12.1、前年同期比+21.2）、来期の見通しについては▲18.8（当期比±0.0）となった。

料金改定に対する顧客の理解が進み、値上げに応じてもらったとの声が聞かれた一方で、人材確保が難しい、人件費や燃料価格の上昇により採算が取れないとの声、4月からの働き方改革を懸念材料として挙げる声もあった。

経営上の問題点としては「従業員の確保難」、「人件費以外の経費の増加」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。



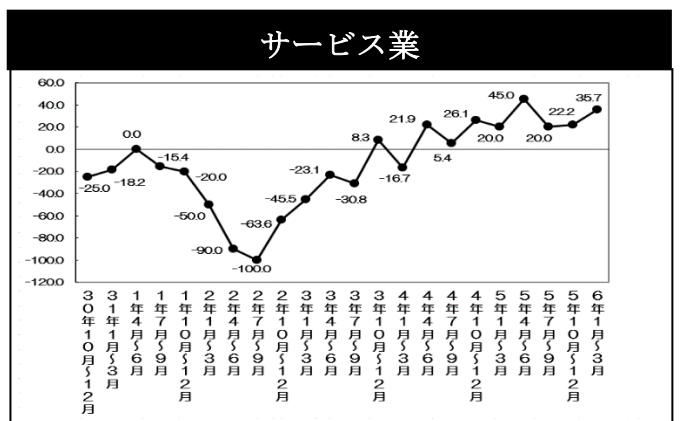
【前年同期比】	令和5年1~3月	【来期見通し】	令和6年4~6月
自社の業況	▲18.8 ↑	自社の業況	▲18.8 →

■サービス業

業況 DI 値は+35.7（前期比+13.5、前年同期比+15.7）、来期の見通しについては+42.9（当期比+7.2）となった。

イベント関連業やレンタル業で、仕事量がコロナ前の水準にまで回復しつつあるとの声が挙がった。一方で、警備業を中心に従業員の高齢化が深刻であるとの声、観光業ではいまだ見通しが不透明であるとの声などが挙がった。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「従業員の確保難」、「仕入価格の上昇」が主に挙げられる。



【前年同期比】	令和5年1~3月	【来期見通し】	令和6年4~6月
自社の業況	35.7 ↑	自社の業況	42.9 ↑